

# NBF

公益財団法人 日本舞踊振興財団

Information

No. 46

2014 SUMMER

## 目 次

- ◆名手訪問／対談 木瀬 照雄(TOTO 株式会社相談役)
- ◆講演会／「絵手紙と「こころ」文化」 島田 幸吉
- ◆日本舞踊誌上講座／日本舞踊の歴史を振り返る②  
東京大学文学部 教授 古井戸 秀夫
- ◆青少年に対する日本舞踊の普及活動
- ◆役員会等の動き、役員等名簿
- ◆平成 25 年度 正味財産増減計算書
- ◆特別会員芳名
- ◆NBF 活動報告・行事予定・編集後記

# 名手訪問

## 《対 談》

●木瀬 照雄 (TOTO 株式会社相談役)

●西川 扇藏 (公益財団法人 日本舞踊振興財団 理事長)  
[敬称略]



2014年4月18日(金)(於:TOTO株式会社 応接室)

**西川** 今日はお忙しい中お時間を取って頂きありがとうございます、こちらから色々とお話をうかがわせて頂きたいと思っております。「TOTO」といえば私がすぐ思い浮かべるのはトイレで特にウォシュレットですが、当初営業として入社されて、新しい商品などとの関わりや、どのような形で新しいものを作り発展させていったのか、ということなどをお伺いできればと思っております。

**木瀬** 日本でトイレのような衛生陶器を作ること自体、ベンチャーに近いものでした。下水道が全くない時代ですから、需要があるかどうかもわからない。それを当時(当時は日本陶器)のトップが、海外を視察し、まず西洋食器を作ったのが日本陶器の始まりでした。西洋では当時は製陶がさかんて文化の基でした。陶器製の水洗トイレがある生活文化が絶対に日本にも必要であるという強い意思のもと、日本陶器の中に製陶研究所という会社をつくり、衛生陶器の開発に何年もかけ、第1号を完成させました。衛生陶器のような大きな陶磁器製品の製造は日本では未経験であっ

たため困難を極めました。第1号が出来たことによって、何とか製品化のめどがたち、続けることになりました。食器などは原料が少なくてすむのですが、衛生陶器は原料がかなり必要で、焼くための燃料も必要です。どこがいいかと探した時に、北朝鮮や、九州の天草に陶石、陶土などの良質な原料があったため、輸入や輸出に便利な九州の小倉を選び工場を設立しました。まず日本陶器が設立され、次に東洋陶器が設立されました。それから日本磚子が設立し、日本特殊陶業が設立しました。その4社いずれも陶器の会社です。このような流れの中で東洋陶器が北九州に出来ました。衛生陶器以外にも、日本で初めてのものを多く作っています。例えばプラスチックの浴槽というのはTOTOが初めて作ったのですが、それまでは木やタイルが主流でした。その後、東京オリンピックの時にはニューオータニの防水工事が間に合わないというので、大成建設と協力してユニットバスを日本で初めて開発しました。それが現在は広く一般家庭にも普及しているシステムバスという形に変化

していきました。お客様に新しい生活文化を提供するために、日本で初めて世界で初めてのものにも挑戦していくという思いが受け継がれています。その中でウォシュレットは、もともとアメリカで医療用具としてあったものを日本に持ち込んで改良したものです。私が会社に入ったころですが、よく壊れて補修には必ず行かされました。月に150台位売り上げがありました、どちらかというと医療用具として販売していました。その中で快適だという話が少しずつ出てきたので、一般に販売できる物を作ろうということになり、水と電気という相性のよくないものを合わせ持つ、ウォシュレットを開発し販売しました。当時私は営業の第一線だったのですが、売るのは大変でした。誰も使ったことのないものを売るわけですから。価値を伝えるのがものすごく難しい。私は当時千葉で営業をしていました。衛生陶器は水道工事店が取り付けます。その水道工事店の奥様に、サンプル的に安くしますから必ず1個使ってくださいとお願いしました。使ってもらえば良さがわかってもらえます。使わないとわからないので、非常に難しいところがありました。アメリカでも価値の伝達に苦労しています。アメリカではおしりを洗うということはイメージがよくないため、自分が使ってみてよかった、とは人には絶対言わないのです。口コミで広がらないわけです。また、ホテルなどでは、支配人はクレームに繋がりがやすい電気を使うものはあまり好みません。だからなかなか付けてくれません。2～3年前、ある方がハワイの一番いいホテルを買い取って全部にウォシュレット付けるといったところ、現地が大反対をし、結局スイートルームだけに付けることになりました。アメリカではある著名なホテルが最初に使ってくれて、今では付いている部屋に泊まる人が増えてきています。日本のホテルでは宿泊客のアンケートに「ウォシュレットを着けてほしい」と書いてもらえるようになりました。文化の違いがあるので、最初は本当に苦労しました。どんなものでもその時にちゃんと価値を伝えて、きちんと理解してもらい採用して頂く。使ってもらえば、信頼が返ってくるということがよくわかりました。われわれの売上は昔は新築が7割位でした。今では逆転してリフォームが約7割。3分の2以上になりました。それも相当な努力をしました。リフォームというのは今住んでいる住宅の不

満を解決するため、こだわって商品を選ぶ方が多くいらっしゃいます。浴室では、水はけがよく、翌朝靴下で入っても足がぬれない「カラリ床」を業界で先駆けて発売しました。「魔法びん浴槽」は4時間経っても温度が2度しか下がらず、帰宅が遅くなったお父さんも温かいお風呂に入れます。ウォシュレットでも、水は同じ勢いで出ているわけではなく、大小の水玉を組み合わせて出しています。ですから少ない水量で、使用する電気も抑えることができます。それでも同じ効果がある。シャワーも空気を入れることによって、浴び心地は同じでも水の量は従来品の約3分の2です。そういう目に見えない所で相当進歩しています。

西川 今様々なメーカーも同じような商品を販売していますが、製品として違いとかはあるのでしょうか。

木瀬



TOTOのウォシュレットでは、最新のものは水道水を電気分解した除菌水を使用後に便器にふきかけ、見えない汚れや菌を分解・除菌しています。水を電気分解しているので、時間がたてば元の水に戻り、環境にも負荷がありません。他社では、洗剤を入れておけば使用後に自動で洗うトイレがあります。

西川 われわれは、どの温水洗浄便座も「ウォシュレット」と呼んでしまいますけど、本来はTOTOさんだけが「ウォシュレット」という名前では他は違うわけですよ。

木瀬

そうです。例えばトイレトーパーや、お掃除製品などで「ウォシュレット専用」と書きたいと言われることがありますが、「ウォシュレット」ではなく温水洗浄便座にしても、ということなどは結構あります。どうしても使いたいという希望があれば交渉しながらということになります。ブランドはとても大事にしています。高級ブランドとして認知されている中国など海外では、本当にブランドをしっかり守らないといけません。われわれの商品はあこがれの商品になっていますから。

西川 TOTOさんのトイレは地域によって違いがありますか？

木瀬 あります。イスラム系は形が全然違います。アメリカでも西海岸は日本と同じでシャープな感じのデザインですが、東海岸はちょっとごてごてした感じのデザインです。中国はヨーロッパのトレンドを取り入れたものが人気があります。

私が東大のものづくり研究所で公演をしたときに、中国の方が「7～8年日本に住んでいます、中国に帰った時に、おじが家を建てたというので行ったら、TOTOをものすごく自慢していました。日本は中国に比べてブランド価値がとても低いと思いますが、なぜですか？」と質問されました。日本では住宅や公共のトイレなどさまざまな場所のトイレを供給しています。中国では高級品に絞って販売しています。その差があります。われわれも手入れの行き届いていないトイレからはTOTOのロゴは外したいのですが。キッチンを出した時は最初とても苦労しました。便器のメーカーがキッチン作るとは何事だと言われてね。

西川 どういう経緯で「TOTO」に社名変更をしたのでしょうか。

木瀬 私が入社した1970年に「東洋陶器」から「東陶機器」という社名に変更しました。陶器だけではなく、水栓金具、洗面化粧台、浴室など住宅設備の製造も増えてきたので、「東陶機器」に変えました。ブランドは「TOTO」です。その前まではローマ字の「Toyotoki」でした。私が社長になってから社名もブランドと一緒にしようということで「TOTO」に変えました。一番効果があったのはグループ会社全部に「TOTO」の名前をつけたことで、社員の意識に変化がありました。これでやっと「TOTO」のメンバーになれました、と言われました。海外のグループ会社もそうしましたから、その効果は大きかったです。それとテレビなどで会社名が出ると4文字で簡単なので皆さんに気づいてもらえるようになりました。

西川 先ほど、アメリカで苦戦なさっているとおっしゃっていました。よくハリウッドセレブはウォシュレットを使っているという話を聞きますが、そういう人たちは個別に自分の家

にあるということですか？

木瀬 そうです。使っていても、そのことを言わないようです。ですが、日本で買って帰った、などという話しはよく耳にします。

西川 さっきおっしゃっていたように、イメージがよくないからということでしょうか。

木瀬 そうです。それともひとつアメリカは、トイレ、おしりなどの言葉は放送禁止用語に近くテレビなどでの宣伝があまりできません。かつてアメリカではブロードウェイにウォシュレットの写真を載せたことがありますが、それだけでも大変でした。

西川 中国に行ったときに驚いたのは、扉がないようなトイレでした。そういう所だからこそ、富裕層は逆に清潔さを求めるのかもしれませんがね。



木瀬 今、一番「ウォシュレット」がついているのは日本以外では中国の新しいホテルです。ほとんどが付いています。シンガポールは半分位。アメリカはほとんどないです。それとフランスには新築がありません。今度の東京オリンピックは日本のトイレ文化というものを知ってもらえるチャンスです。たくさんの外国の方々日本に来て体験してもらい機会があります。われわれは欧米に行って教えてもらったトイレの文化を、日本でここまで進化させました。今度は逆にお返ししたいと思っています。

西川 基本的にヨーロッパの人は、日本人とかアメリカ人みたいに清潔に保つという感覚がありませんよね。

木瀬 日本人が一番清潔にしているようです。お風呂に毎日入るのはおそらく日本人だけだと思います。アメリカでは一番良いホテルでもバスタブがないところはいくつもあります。日本人は、お風呂に浸かってゆっくりしたいという感覚がありますけど。ヨーロッパではないようです。そういう文化の違いは必ずあります。

**西川** 会社そのもの、社員の方を含めた今後の「TOTO」の未来像をお伺いしたいのですが。

**木瀬** 日本国内ではリフォーム需要はまだまだありますから、お客様の要望をしっかり察知し、本当にいいなと思われるものを作って提供していくことです。クレームが一番の宝になります。それを真摯に受けとめていけば、まだまだ商品を進化させることはできます。さらなる CO<sub>2</sub>削減・節水など、まだ課題も沢山あります。いろんなテーマで研究をし、商品開発していく。将来的には、トイレの中でいろいろな病気がわかるようになるなどもあたりまえになるかもしれません。トイレでデータをとれば、病院に送れるようになるなど。トイレの中で何が出来るのか、浴室で何が出来るのか。それを徹底的に研究していけば、まだいろいろやることはあると思います。日本で生まれたよい商品を、国内だけでなく海外にも持っていく。その国のベストの形の商品として提供していきたいと思っています。いわゆる世界均一ではなく、それぞれの国で尊敬される会社になっていく。そういう努力をしないとはいけません。それぞれの国で何が出来るのか。インドは工場が出来たばかりなのでこれからですが、インド国内だけでなく近隣のエリアにも広げていきたいと思っています。

**西川** 最後にひとつお伺いしたいのが、ブランドのイメージを高めていかなければいけない、ということを考えていらっしゃるということでしたが、それは他の会社との差別化ということもあるわけですね。常に新

しい商品を開発して、常に一歩先を行くという。

**木瀬** ブランド「TOTO」を本当に大事にすると言うこと。ロゴを使う場合の使用方法を規定した「VI マニュアル」を作りました。例えば「TOTO」の周りに線をいれたりするときにはどのくらい離すなどをガイドしています。そこを守らないと、いつのまにか崩れていってしまう。それとブランドというのは社員が守らなくてはいけない。社員一人ひとりが「TOTO」のブランドを背負っているということを意識させる。会社の代表ですから、お客さんのところへ行ったら何かあると「TOTO」のブランドイメージが下がります。一人ひとりがブランドを背負っているんだということを、社員にはずっと言い続けています。お客様は社員を通じて会社をみている訳ですから。「TOTO」の代表だと思ってお客様に接してほしいと思っています。

**西川** ありがとうございました。

## 木瀬 照雄氏 プロフィール



1947年 福岡県出身  
1970年 京都大学教育学部卒業  
同年 東陶機器株式会社入社  
1979年 柏出張所長  
1981年 千葉営業所長  
1984年 東京支社企画課長  
1986年 営業商品第二課長  
1990年 営業企画課長  
1992年 営業企画部長  
1994年 ファン事業推進PJリーダー  
1996年 取締役経営戦略室長  
1998年 取締役大阪支社長  
2000年 常務取締役マーケティング本部長

2002年 専務取締役販売推進グループ長  
2003年 代表取締役社長  
2006年 過去最高売上げ達成。  
毎日経済人賞受賞  
2009年 代表取締役会長兼取締役会議長  
2014年 相談役



## 第48回 講演会

### 絵手紙と「こころ」文化



講師 島田 幸吉氏

日時 平成26年1月27日(月)  
15時00分～16時30分

会場 東京信用金庫本店  
8階ホール

皆さんこんにちは。

ご紹介いただきました島田と申します。今日お見えの中で「絵手紙という言葉を知っています」という方、手を上げていただけますか？ありがとうございます。20年位前に私が日本絵手紙協会を絵手紙の創始者の小池邦夫さんと全国的な組織で立ち上げようとした時に、問い合わせの電話がかかってきて「はい、絵手紙です」とでると「絵手紙ってなんですか」と多くの方に言われました。今は少しずつ知られるようになってきていると思います。皆さんも絵手紙と言う言葉はほとんどの方が聞いたことがあるようですが、「絵手紙を描いたことがあるという方はいらっしゃるでしょうか？」ほとんどの方が描いた事はないようですので、今日はそもそも絵手紙とはどういうものなのかということを含めて、皆さんにお話をさせていただければと思います。実は今私はリュックを持ってここへ来ました。リュックの中には何が入っているかといいますと、エンピツ削り、筆ペン、万年筆、ボールペン、クレヨンのような色を塗る為のものなどが入っています。それからもう1つ肝心なものが葉書ですね、画仙紙葉書。これだけ持っていればどこへ行っても絵手紙が描けます。

例えば皆さんの発表会の時におきまりの活字のパンフレットではなくて、絵手紙で「今度発表会をします」ということを1人が10人ずつ自分の踊り姿を描いて出したら、結構多勢の人が来てくれると思いますし、その中から輪が広がっ

て会員が増えていくというようなこともおおいに考えられると思います。人が書いたものを見て描くのではなくて、実物を見て絵を描き、そこに自分の書きたい言葉を添えるというのが絵手紙の一番大事な流儀です。絶対に人まねをしてはいけないというのが絵手紙のやり方です。絵手紙の一番基本的な考え方は「下手でいい、下手がいい」という考え方。この「下手でいい」という考え方が非常に評判になって、いろんな人達が絵手紙を始めてくれるようになりました。絵手紙は「下手でいい」そして「下書きはしない」。ですけど「良く見なさい」というこれ一つだけが大きな約束です。実物を良く見て描きましょう。人の真似をしてはいけない。自分らしいもの、自分が描こうと思ったものを描く、これが絵手紙の考え方です。そうするとその人がどんな物を描いても切手を貼って出したら相手が見てくれます。

皆さんの舞踊会などの催し物で、絵がなくても筆やペンで書いたもの、手書きのものを送ることによって、舞踊を知らない人にも皆さんのやっていることが伝えられる。私は踊っている様子を絵手紙に描いて出したいですね、特に着物姿。それから日本舞踊の間、そういうものはある部分筆文化と非常に共通するものがあります。時間が迫ってきましたが、もう一度皆さんに是非絵手紙を描いていただきたいということを含めて、絵手紙のことをお話したいと思います。絵手紙の道具というのは基本的にはこの葉書です。例えばこれは「葡萄」を描いた絵手

紙です。葉書に大きく葡萄を描いて、ここに添えてある言葉が「すごいこんなにぎゅうづめでもみんななかよくやってるんだ みならおう」このように描いて私に送ってくれた方がいます。面白いですよ。これは絵が上手くても上手くなくても、こんな言葉がついていて「そうだよね」と思います。こういうものを見ながら考えるというのは結構面白いです。一番最初に見せたこの葉書は「蟹」が描いてありますけど、葉書から絵がはみ出していますから、足も手もみんなはみ出しています。ここに書いてある言葉は「今年は正面からにらめっこ」とこんなふうに書いてあります。ですから正面から何でも立ち向かって行くということだと思います。裏には手紙が書いてあります。ここには「おいしそうなラフランスのお手紙ありがとうございます。私も大好物です。でも食べごろを見分けるのは難しいですよ。昨年蟹の絵手紙を差し上げましたところ、褒めていただいたので今年は正面から描いてみました。1年って早いんですね。もう師走も中旬です。お身体大切になさってください。」と書いて送ってくれました。もちろん絵がなくてもいいのですが、絵があるだけでいろいろな背景とか季節の挨拶とか、そういうものを全部省略できるというのが絵手紙の良さでもあります。本当に自分の手を描くだけでも、そして絵と言葉とが全然関係なくてもいいんです。そんな事を考えて皆さんも是非始めてみて下さい。葉書は郵便局で売っている普通の葉書でももちろん大丈夫ですが、画仙紙葉書という少しにじむ葉書があります。例えばこの葉書は3つ墨をたらすだ

けで、3つのにじみが広がってきてとても芸術的な作品になってしまう。そこに始めての方でしたら消しゴムに自分の名前を彫った印鑑を押したりすると、これだけで知らない人が見たら、あの人はこんなすごい事をやっていると思ってくれるくらい立派な作品になります。やはりこの良さは何かというと「手作り」です。

最後に一つだけ「下手でいい」の後に「下手がいい」がつくのです。「下手がいい」という言葉を絵手紙をやっている人は皆勘違いしています。「下手の方がいい」と思っています。ところが「下手でいい、下手がいい」というのは、絵手紙あるいは芸術をやるときの精神のことを言っているわけで、ここでいう「下手がいい」というのは、もしかしたら皆さんが舞踊をする時の「無の境地」と似ているかもしれません。物事を上手くやろうとかやるまいとか言うのではなくて、「無の境地」になってやる事ができれば、これこそが素晴らしいという意味合いで「下手でいい、下手がいい」と言っています。これをかなり多勢の人が勘違いをしていて、「下手に描かないといけなのね」と思う人が多いのですが、そうではなくて非常に高い境地、稽古して稽古してとことん極めて尚且つ「下手でもいい」という境地になるということを頭に置いている言葉で、決して浅い言葉ではありません。ですから皆さんが踊りをするときの本当の専門家、プロになったときの心意気と同じなのかなというふうに思っています。そんなことで今日の私の講演を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

## 島田 幸吉氏 プロフィール



1944年長野県栄村に生まれる。  
長野県立茅野高校 書道科教諭。  
書道団体あきつ会 事務局長。  
日本絵手紙協会 初代事務局長（現顧問）。

現職、(社)国際書体検定協会 代表理事、  
同 隔月刊誌「書体検定」編集長。  
栄村国際絵手紙タイムカプセル館、山路智恵絵手紙美術館 理事長。

著書、幹一書相字典（天・地）、智恵の絵手紙銀メダル など

## 松風物の系譜⑥

東京大学文学部 教授  
古井戸 秀夫

長唄の人気曲『汐汲』は、女形ではなく立役の三代目坂東三津五郎が初演しました。数え年で三十七歳、人気絶頂の三津五郎が踊った『七枚続花の姿絵』という「七変化」の一齣でした。そのとき三津五郎は、中国の『三国志』の英雄、関羽の霊像に扮しました。関羽の絵姿を描いて貼ると、泥坊除け火災除けのお守りになる、その護符は「鎮宅霊符」と呼ばれました。それ故、三津五郎の正式な役名は「鎮宅霊符の神霊」で、関羽の霊像が悪者を翻弄するために姿を替えて現われては消える、という変化物の所作事でした。三津五郎は、女形の姿を三つ、立役を三つ、関羽の霊像と合わせて、七役をひとりで踊り抜きました。源氏物語の「女三の宮」に「汐汲」と「老女」、これが女形の三役でした。一方、立役は「梶原源太」「猿廻し」「浮かれ坊主」。このうち「汐汲」と「浮かれ坊主」を除く四役は、三年前にはじめて「七変化」に挑戦したときにも踊っています。新作の書き下ろしで踊った「汐汲」と「浮かれ坊主」、この二役が評判を呼ぶことになりました。

三津五郎のライバルで三歳年下の、三代目中村歌右衛門が対抗して『遅桜手爾葉七字』という「七変化」を踊ったのは、このときのことです。歌右衛門は、子供たちの疱瘡除けの神様、「朱の鐘馗」に扮して同じように七役を踊っています。その中のひとつが『越後獅子』でした。ライバルの競演が変化物の舞踊の流行に火を付けることになったのです。

歌右衛門の「七変化」は、七曲すべて長唄の曲でした。それに対して三津五郎は長唄が二曲だけで、常磐津が四曲、『汐汲』

は長唄と常磐津の掛け合いです。踊りだけではなく、地方の演奏にも変化を付ける、三年前に三津五郎が試みた実験的な手法でした。さまざまな音楽を組み合わせる面白さが、変化物の流行に拍車を掛けることになったのです。

『汐汲』の再演は十二年後、三津五郎が四十九歳のときでした。『法花姿色同』という五変化の舞踊の一齣でした。このとき、常磐津の部分も長唄が歌い、それが好評で今日まで伝承されることになりました。因みに、再演のときの三津五郎の役は関羽の霊像ではなく、筑波山の狐の化身でした。六代目菊五郎は、狐というその設定の復活を試みています。『浮かれ坊主』を原曲の常磐津から清元に変更したのも、六代目菊五郎でした。

三津五郎が手本にしたのは、「おたふく」と仇名で呼ばれた女形の四代目岩井半四郎の「七変化」でした。半四郎は江戸で四度、大坂で二度、京でも「七変化」を踊っています。三度目の『杜若七重の染衣』では、御家の重宝七星の兜を守護する北斗七星の精霊が七つの姿になって現れる、という設定でした。女形は四役、「小町」(官女)「手習子」「松風」「おほこ人形」(切禿)、立役も「座頭」「浦島」の二役、最後の七星の精霊は「石橋」の獅子でした。人気曲の『手習子』が初演されたのは、このときでした。

半四郎の松風は、行平が形見に残した「折烏帽子・水干」を身に付け、汐汲み桶を担いで登場しました。天秤棒に桶を提げ、その桶で汐を汲むさまを見せるのは、能の『融』の演出を応用したものでした。融の亡霊は、老人の姿で汐を汲みます。満ちく



る汐の中に入り、汐を汲む過酷な労働を老人や娘にさせる、その見立てに面白さがあったのです。半四郎は「おちゃっぴい」と呼ばれる、お転婆娘を本領とした女形でした。

汐汲みのあと、松風のクドキから狂乱になり、「梅の花笠、三笠山」という笠尽くしの歌で、「踊り地」になりました。歌詞に「二蓋、三蓋そろうた笠の」とありますので、半四郎は振り出しの花笠を両手に持って踊ったのでしょうか。当時は『娘道成寺』の「花笠」の踊りでも、白拍子が自分で振り出し笠を手を持って活発に踊ったものでした。現在のように、所化の傘の踊りになるのは、明治の九代目團十郎からだと言われています。

三津五郎の『汐汲』の特色は、その笠を傘に替えて、「三蓋傘」にしたことでした。歌詞も「濡れによる身は、傘さしてござんせ」にはじまる傘尽くしになりました。三段に開く傘は、実用品ではありません。風流踊りの輪の中心に、目印に立てる風流傘でした。若い娘が重い三段の傘を自由自在に

操るところが見どころになりました。その意味では、毛槍を振って踊る『鎗踊』の系譜を引く女形の舞踊でした。

半四郎は、まだ娘形を兼ねる若い時分にも、『汐汲』を踊っています。そのときの役名は、松風ではなく九重姫でした。打ち掛けの振袖を風に翻して汐を汲むので『松吹袖汐路』という長唄の名題が付けられています。汐汲みの冒頭には、謡で「汐汲み車わづかなる、浮き世を巡るはかなさよ」が謳われます。この詞章は、謡曲『松風』の引用でした。汐汲みが済むと「舞地」になります。能の謡を謳い、舞を舞うところに、九重姫のお姫様らしいところが見られます。

三津五郎の『汐汲』では、松風のクドキと狂乱はなく、代わりに扇の舞が入ります。能のお仕舞のような舞が済むと「中の舞」になりました。三蓋傘で十二分に踊り抜くと、再び能ガカリになります。このコントラストが『汐汲』の魅力になっているのではないのでしょうか。



〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-3-14  
ツカモト堀留ビル6階

フリーダイヤル 0120-5290-58  
ごふくわ いづつや

前号にて青少年に対する日本舞踊の普及の中で特に新宿区文化体験プログラム、伝統文化子供教室について取り上げた。今回はその他の普及事業について筆を進めたいと思う。財団設立後暫くして、私学である東洋英和幼稚園からお話を頂戴し現在に至るまで年一回日本舞踊鑑賞教室を行っている。内容は体験と鑑賞を併せたレクチャーデモンストレーション形式の公演となっている。流れは公演の支度が整い次第演者は化粧を始め、演奏家は楽器のスタンバイをする。そこに三々五々園児達がホールに入ってくる。自分が興味のある物（化粧道具、三味線、太鼓等々）を見てその後、後見、演奏家の指導の基、白粉を手や頬に塗り、三味線、太鼓、を触り体験をする。この際の園児達の集中の度合いは凄い物があり、皆集中してお化粧をしている演者に見入り、分からない事は色々質問する。またバチを片手に三味線を弾き、太鼓を叩く。特に悪ふざけをする児童もなく時間は過ぎていく。そこは子供のこと、ある程度時間が過ぎると三々五々自分達の教室へ戻っていく。それでも10人以上の児童が先生に呼ばれるまでホールで時間を過ごす。園児達が全員撤収すると父兄が園児達の後方に着席し、公演が開始される。

司会が日本舞踊について簡単な説明をし、その日の演目の解説をする、そして正式に園児入場になる。園児が入場すると、挨拶に始まり簡単な楽器の説明、音の説明を行い正式に園児達にも分かりやすい形での演目の解説を行う。その後にいよいよその日の舞台が始まる。その間、児童達はとても集中して舞台を見ている。そして終演、理事長に花束贈呈を行い児童達は退場しお開きになる。この事業を行っていて思うのは児童達の理解の早さ、興味の深さといっ

た事である。またこの幼稚園では先生方全員が事業進行にとっても協力的なので開催している我々と園児、保護者と非常に良い関係が保てていると思う。

また東洋英和女学院という学校そのものも非常に文化に造詣の深い学校であり、幼稚園に続き、中等部、小学部でもレクチャーデモンストレーション公演を行った。こちらは中等部が三年に一回、小学部が六年に一回という在学中に一度公演を見ることが出来るシステムになっている。こちらは学生達が実際前もって舞踊を体験しそれを公演当日時発表する。この体験に参加している生徒達も希望者が多く学校側が希望者から選抜して参加させているそうである。それだけ日本舞踊に興味を持ってくれているという事であろうか。私学と言う規制のシステムに囚われない学校とはいえ様々な文化の中で日本舞踊を選びその公演を実現させているこの学校は稀有な存在である。今後私学、公立問わず子供たちに公演を舞台、体験を含め行える機会が増える事を切望している。

また財団が古くから行っている行事として、公演タイトルは数年毎に変わるが宇都宮市でのレクチャーデモンストレーションがある。かつては毎年二箇所で開催を行ってきたのだが、中々続ける事は難しくここ数年は宇都宮市での公演のみとなっている。この行事は宇都宮市の教育委員会が日本舞踊の公演がある旨を市内の小学校に告知をする。その中で手を挙げた学校の五年生、六年生を対象に公演を行っている。学校にとっては外部のホールまで生徒達を引率して静かにさせて行事に参加させるという大変さもあってか、ここ数年特に参加校（参加人数）が減ってきていた。今年の公演を前に宇都宮市教育委員会から連絡

があり現在五年生以上となっている参加生徒の年齢制限を四年生以上にしたいとの申し出があり了承した。昨年までの数年間は参加人数が400名程度であったが、何と今年は800名の参加者を数えた。

教育委員会によると実際四年生以上の募集としたが、実際四年生の参加人数は数十名であり、寧ろ参加希望校そのものが増えたのが人数増加の要因であるとの事であった。教育委員会側もその理由は不明なようで来年以降もその人数を確保できるかどうかは分からないが、この風潮は続いて欲しい物である。この公演の流れは、まず解説の後、一作品生徒達に舞踊を見せる。その後小道具を使い様々な見立てを行う。そして生徒達を舞台上に上げて体験させ、解説、二演目の上演、そして終演の運びになる。この事業では教育委員会から公演終了後に生徒達の感想文を送って貰うのだが、とても好感触でどの生徒もとても熱心に見てくれている事がわかる。

かつてはこの事業では生演奏で行い、大道具も東京から運ぶと言う大掛かりな公演を行ってきたのだが予算の都合上、最近では録音演奏、ホールが所持している道具での上演になっている。何とかかつてのような大掛かりな公演にし、幾つもの都市で公演

できるように努力を続けたいと思っている。

前号、今号で主に子供達に対する日本舞踊の普及活動について執筆した。我々が子供の頃に学んだ文化を言う物は殆ど音楽なら洋楽、踊りならバレエ、いわゆるダンス、絵画なら洋画と言うように殆どが海外発信の文化であったように思う。が、現在はこのように地方自治体、教育委員会、各々の学校が日本の伝統文化を継承していこうと言う動きをしている。

道はまだまだ半ばにも達していないが、この風潮を絶やさぬようにし、更に発展させ、日本舞踊ひいては日本文化を日本国内に限らず海外でも普及させていきたいものである。



# 役員会等の動き

## 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議での結果
平成26年3月18日	第1号議案 平成26年度事業計画(案)	満場一致で可決
	第2号議案 平成26年度収支予算(案)	満場一致で可決
平成26年5月19日	第1号議案 平成25年度事業報告(案)	満場一致で可決
	第2号議案 平成25年度決算報告(案)	満場一致で可決

## 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議での結果
平成26年5月26日	第1号議案 平成25年度事業報告(案)	満場一致で可決
	第2号議案 平成25年度決算報告(案)	満場一致で可決
	その他 平成26年度事業計画と平成26年度収支予算の説明	

## 公益財団法人日本舞踊振興財団 役員等名簿

(50音順・敬称略)

### 理事長

西川 扇藏

### 業務執行理事

大野 輝康

### 理事

青山 幸恭  
太田 博  
木島 一郎  
今野 由梨  
西川 扇藏  
西川 均  
(西川 箕乃助)  
登 誠一郎  
花柳 寛  
(花柳 壽輔)  
藤間 高子  
(藤間 勘祖)  
三隅 治雄  
水野 豊

### 監事

小山 敬次郎  
半澤 進

### 評議員

飯田 侃  
市川 和雄  
(市川 團藏)  
内堀 祐子  
(西川 祐子)  
越智 久男  
景山 正隆  
近藤 瑞男  
龍居 竹之介  
田中 英機  
田村 直子  
(西川 扇生)

鳥越 文藏  
中村 作二  
波多 一索  
福田 博  
藤田 洋  
藤田 康幸  
古井戸 秀夫  
丸茂 美恵子  
(丸茂 祐佳)



# 平成25年度 正味財産増減計算書

NBF

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	422,659	419,203	3,456	
基本財産利息	422,659	419,203	3,456	
② 受取会費	6,260,000	6,865,000	△ 605,000	
普通会費	3,260,000	3,465,000	△ 205,000	
特別会費	3,000,000	3,400,000	△ 400,000	
③ 事業収益	4,974,000	15,659,846	△ 10,685,846	
青少年に対する舞踊普及事業収益	910,500	717,850	192,650	
舞踊家の海外派遣及び招聘事業収益	0	104,000	△ 104,000	
在日外国人、留学生啓蒙普及事業収益	505,000	0	505,000	
自主公演活動事業収益	30,000	9,474,796	△ 9,444,796	
日本舞踊の新人養成事業収益	401,500	465,200	△ 63,700	
講演会の開催事業収益	107,000	213,000	△ 106,000	
日本舞踊に関する広報活動等事業収益	520,000	675,000	△ 155,000	
制作協力等支援事業収益	2,500,000	4,000,000	△ 1,500,000	
衣裳楽器等の貸与事業収益	0	10,000	△ 10,000	
④ 受取補助金等	976,770	20,427,688	△ 19,450,918	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取国庫地方自治体助成金	976,770	20,427,688	△ 19,450,918	
受取その他助成金	0	0	0	
⑤ 受取寄付金	240,000	275,000	△ 35,000	
受取寄付金	240,000	275,000	△ 35,000	
⑥ その他の収益	229,186	204,629	24,557	
受取利息	1,514	2,903	△ 1,389	
受取配当金	800	800	0	
受取雑収	226,872	200,926	25,946	
経常収益計	13,102,615	43,851,366	△ 30,748,751	
(2) 経常費用				
① 事業費	9,446,777	37,031,644	△ 27,584,867	
給法会旅通消印光賃賃委雑	1,274,672	1,276,440	△ 1,768	
定料	22,531	18,606	3,925	
福議交運品	0	0	0	
利生通搬	37,954	8,424,024	△ 8,386,070	
費信耗	526,630	1,728,276	△ 1,201,646	
製水借借託	531,753	801,408	△ 269,655	
本料	1,554,495	2,124,215	△ 569,720	
費料	6,647	5,220	1,427	
費料	770,300	1,043,720	△ 273,420	
費料	4,221,000	15,840,175	△ 11,619,175	
費料	335,950	4,556,280	△ 4,220,330	
費料	164,845	1,213,280	△ 1,048,435	
費料	3,313,439	3,970,944	△ 657,505	
② 管理費	224,942	225,253	△ 311	
給法会旅通消印光賃賃委雑	3,976	3,283	693	
定利	10,000	0	10,000	
福厚議交運品	124,146	109,274	14,872	
利生通搬	188,880	238,490	△ 49,610	
費信耗	352,397	506,296	△ 153,899	
製水借借託	37,582	167,286	△ 129,704	
本料	21,532	32,089	△ 10,557	
費料	164,040	231,000	△ 66,960	
費料	201,125	28,000	173,125	
費料	1,173	921	252	
費料	90,000	90,000	0	
費料	8,600	190,700	△ 182,100	
費料	0	110,000	△ 110,000	
費料	1,282,575	1,276,800	5,775	
費料	602,471	761,552	△ 159,081	
経常費用計	12,760,216	41,002,588	△ 28,242,372	
当期経常増減額	342,399	2,848,778	△ 2,506,379	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	342,399	2,848,778	△ 2,506,379	
一般正味財産期首残高	119,428,007	116,579,229	2,848,778	
一般正味財産期末残高	119,770,406	119,428,007	342,399	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	119,770,406	119,428,007	342,399	



# 特別会員 ご芳名

日本舞踊振興財団では、特別賛助会員制度を設け、下記の方々にご支援を  
いただいております。是非ご参加をお願い申し上げます。

◎会費 1口 10万円(1年間)  
◎特典 会報のご送付  
会報・公演プログラム等にご芳名掲載  
財団主催イベントにご招待

飯 田 侃	竹 内 小 道 具 (演劇舞踊小道具店)
飯 田 君 子	東 京 信 用 金 庫 (理事長 半澤進)
飯 田 信 子 (飯田不動産 代表)	東 信 企 業 (株) (代表取締役 金澤克夫)
飯 田 全 子 (和光不動産(株) 代表取締役)	西 川 井 扇
市田(株)井筒工芸ディビジョン	(株) 西 菱
(有) か つ ら 大 阪 屋 (代表取締役 長坂誠一郎)	NPO 法人日本伝統芸能振興会 (会長 石田寛人)
金井大道具株式会社 (代表取締役 金井勇一郎)	NPO 法人日本文化研究所 (理事長 木村知躬)
歌 舞 伎 座 舞 台 (株)	(株)ビデオフォトサイトウ (代表取締役 斉藤政雄)
(有)ギャラリー竹柳堂 (代表取締役 藤澤繁)	報 知 新 聞 社 (代表取締役 早川正)
向 陽 開 発 (株) (代表取締役 鈴木甫沙子)	(株)ホテルオークラ東京 (代表取締役社長支配人 清原常博)
松 竹 衣 裳 (株) (代表取締役 酒井誠一)	藪 本 俊 一 (株)古美術藪本 代表取締役)
セガサミーホールディングス(株) (代表取締役会長兼社長 里見治)	山 本 化 学 工 業 (株) (代表取締役 山本富造)
関 根 愛 子	(株) 吉 岡 衣 裳 (代表取締役 清水喜重郎)
大 東 建 設 (株) (代表取締役 齋藤満宣)	
(株) 瀧 川 峰 晴 堂 (代表取締役 瀧川明行)	

◆財団の趣旨にご賛同いただける方は財団事務局までご連絡ください。特別会員について  
ご説明いたします。その上でご希望の方には申し込み書類をお送りさせていただきます。

財団事務局 TEL 03-3354-5496

## NBF活動報告

### ◆ 新春につどう

日 時：平成 26 年 1 月 14 日(火)14時開演  
会 場：経団連会館ダイヤモンドルーム  
内 容：祝舞、獅子舞、賀詞交歓、活動経過報告

### ◆ 第 48 回講演会

日 時：平成 26 年 1 月 27 日(月)  
会 場：東京信用金庫本店 8 階ホール  
演 題：「絵手紙と「こころ」文化」  
講 師：島田 幸吉

### ◆ 幼稚園おどり教室

日 時：平成 26 年 2 月 17 日(月)  
会 場：東洋英和幼稚園  
内 容：幼稚園児に自然な雰囲気から「日本舞踊」  
に親しむように企画した啓蒙活動

### ◆ 仕舞教室・狂言教室合同発表会

日 時：平成 26 年 3 月 12 日(水)  
会 場：西川扇藏稽古場  
内 容：受講生がより熱心に受講する為に二年に  
一度行われていた杉並能楽堂での発表会  
の間の年に小規模な発表会を行った



### ◆ 未来(あす)に羽ばたく新進芸術家による日本舞踊公演

日 時：平成 26 年 5 月 14 日(水)  
開催地：栃木県宇都宮市  
演 目：長唄「操三番叟」、長唄「手習子」  
内 容：我が国が世界に誇る伝統芸術である日本  
舞踊の更なる普及、発展を目的として、  
文化庁の新進芸術家研修制度を体験した  
ような意欲的な若手中心の舞踊家による  
日本舞踊公演。日本舞踊への理解度が深  
まるよう観客に対してのワークショップも行う

## 公益財団法人日本舞踊振興財団 「NBF」 No.46

発 行 公益財団法人日本舞踊振興財団  
〒162-0065 東京都新宿区住吉町  
10-8 片桐ビル 301

印 刷 株式会社デイエムピー

発行日 平成 26 年 7 月

## NBF行事予定

### ◆ KAKEHASHI project における文化体験(日本舞踊)

日 時：平成 26 年 7 月 1 日(火)14時～16時30分  
平成 26 年 7 月 2 日(水)9時30分～10時30分  
会 場：日本青年館中ホール  
主 催：国際交流基金

### ◆ 新宿区「こども文化体験プログラム」ー日本舞踊ー

日 時：平成 26 年 8 月 5 日(火)～7 日(木)  
会 場：新宿区四谷地域センター

### ◆ 第 49 回講演会

日 時：平成 26 年 8 月 22 日(金) 15 時～16 時 30 分  
会 場：東京信用金庫本店 8 階ホール  
講 師：堅田 喜三久  
演 題：「日本舞踊の中のお囃子演奏」

### ◆ 文化庁-伝統文化親子教室-新宿区日本舞踊こども教室-

日 時：平成 26 年 10 月～平成 27 年 1 月  
会 場：新宿区内公共施設

### ◆ 第 50 回講演会

日 時：平成 27 年 1 月 26 日(月)  
会 場：東京信用金庫本店 8 階ホール

### ◆ 幼稚園おどり教室

日 時：平成 27 年 2 月 23 日(月)  
会 場：東京英和幼稚園



## 編集後記

じめじめした梅雨の季節、皆様如何お過ごしで  
しょうか。今年も夏に新宿区文化体験プログラム、  
秋から伝統文化親子教室といった児童に対する  
普及活動がごございます。

皆様の暖かいご支援の基、今後も今まで以上に児童、  
成人を問わず普及活動に勤しむ所存でございませ  
う。今後とも宜しくお願い申し上げます。